

はじめに

疾患に伴う様々な痛みの中でも、神経障害性疼痛は難治性であり、医療者の関心を集めていることは周知の事実である。これを踏まえ、日本ペインクリニック学会は、平成23年6月に「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン」を和文・英文で出版した。その後、新規薬物・薬剤の登場や神経障害性疼痛に関する新しい知見も得られたことから、日本ペインクリニック学会では、今回、改訂版を作成することとした。また、今後、3年ごとに改訂することとした。

「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版」は、日本医療機能評価機構、EBM普及推進事業「Minds」の「診療ガイドライン作成の手引き2014」やAGREE IIなどの資料に準じて作成した。ここにevidence-based medicine (EBM)の考えに則り、ガイドラインの改訂版を提示する。

本ガイドラインが広く用いられることによって、少しでも多くの神経障害性疼痛患者の生活の質 (quality of life : QOL) 改善に寄与することを期待する。

「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版」作成の目的

本ガイドラインは、ペインクリニック医師および痛み診療関連の医療従事者のみならず、かかりつけ医も対象とし、多くの医療者が神経障害性疼痛に対する基本の処方を理解することで、神経障害性疼痛患者のQOL向上に寄与することを目的とした。

「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版」の基本理念

本ガイドラインは、現時点における最新の神経障害性疼痛薬物療法のエビデンスを示し、一般に公開し、医療従事者の治療方針の作成や医療を受ける側との相互理解に役立てるものである。

改訂版は、「Minds 診療ガイドライン作成の手引き2014」やAGREE IIを基に作成することとし、CQ (クリニカルクエスション)、解説、CQの項目の推奨度、エビデンスレベルをつけること、オピオイドの適正使用などexpert opinionも混在しながら、できるだけCQ形式で作成することを基本とした。CQ形式とすることで、痛みの専門医のみならず、一般内科医、かかりつけ医まで対象として、地域医療を担うかかりつけ医にもわかりやすいガイドラインを作成することとした。

「Minds 診療ガイドライン作成の手引き2014」(<http://minds4.jcqh.or.jp/minds/guideline/handbook2014.html>)に沿った形式で、神経障害性疼痛の定義、疫学、診断、治療、慢性痛の治療目標であるQOLの改善に対する効果や痛みに伴う関連症状 (睡眠障害や抑うつ気分など)、各論の順でCQを作り、推奨度と解説で答えるという形で統一することを原則とした。エビデンスを重要視し、保険適応のない薬物も解説した。適応外の薬物については、これについてコメントし、専門医のみならず、一般内科医、かかりつけ医まで対象として、理解できるようなものとした。また、今回の改訂版では実臨床に即したガイドラインとするため、疾患各論を設けて、個々の疾患に対する薬物療法の有効性について検討し、詳細に記載した。

一部の権威者の意見でなく、学会として中立な立場からガイドラインを作成するため、作成には若手、中堅の協力者も多く入れることとした。

また、「非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン」初版と「神経障害性疼痛薬物療法のガイドライン」初版との整合性をとるため、本改訂版では、それぞれのガイドライン作成委員会の委員を半分程度重複させ、連携の下に、2つのガイドラインの整合性を保つこととした。

オピオイドの分類に関しては「非がん性慢性[疼]痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン」と整合性をとり、「弱オピオイド」、「強オピオイド」という呼び方と同時に、WHOの分類を基に「軽度」(トラマドール)、「中等度」(ブプレノルフィン)、「強度」(フェンタニルなど)の分類で記載した。

本改訂版は、本稿は日本ペインクリニック学会「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂版作成ワーキンググループ」コアメンバーが中心となり、委員、および協力者によって作成された。さらに、度々にわたるワーキンググループ会議、コアメンバー会議、メーリングリストによる会議、討論を基盤として完成した。

また、外部専門家として様々なアドバイス、意見をいただいた名郷直樹先生(武蔵国分寺公園クリニック 院長)に心から御礼申し上げる。

最後に本改訂版作成にあたり、多大な御尽力をいただいた日本ペインクリニック学会「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂版作成ワーキンググループ」の委員、コアメンバーの諸先生方、御協力、御指導いただいた顧問、外部委員の先生方、日本ペインクリニック学会会員、関係学会の皆様がこの場を借りて、感謝の意を表する。

福井 聖
日本ペインクリニック学会
神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂版作成ワーキンググループ委員長